

郷土史家 勇 知之 先生

西南の役の悲劇を伝える哀歌「田原坂」

はじめに

只今、紹介いただきました勇でございます。去年に続いて2回目でございますけれども、今日は、民謡田原坂のお話をさせていただきたいと思います。

1. 二節存在する「民謡 田原坂」

民謡田原坂は皆さんもご存じのように、おてもやんと並んで熊本では代表的な民謡だという風に思います。ところがこの民謡田原坂が実はひとつではないと、鹿児島にも田原坂がありまして、そちらの田原坂の方が早く歌われてレコードにもなっているということをご存じない。歌の節もふたふさ種類あるんですね。聞かれると、そうですね6：4か7：3で鹿児島の節で歌ってらっしゃるんですよ。みなさんもまかり間違うと、鹿児島の節で熊本民謡ですって、友達とかなんかで歌っている場合があると思いますね。それから中には観光客の方は、植木地方で歌われている民謡だろうと。違いますよ、これは田原坂の歌を思い出した人が歌い始めた歌でございます。

日本で一番新しい民謡だと私は思いますね。そういうことを意外にご存じじゃない。おてもやんは、その恋をしたおてもさんのお話とかキンキランは、堀平太左衛門の宝暦の改革のお話だということを意外と知っておられる。ところが、民謡田原坂については、田原坂の戦争の歌だろうぐらいしか、意外にご存じないだろうと。今日は非常にいい機会だと思います。しかも、ビデオに撮られて全国に発信されるという機会はほとんどなかったんじゃないかと思いますね。わたしの時間がある限り皆さんの質問もお受けしたいと思いますので、民謡田原坂について。

よそから来られた人はもちろんご存じないですから、皆さんが宣伝マンになっていただきたいな、という風に思います。ですから、今日は今ちょっと言いますよ。結論から先に言いますと、日本で一番新しい民謡じゃないかと。そりゃそうですね。明治10年の事件を扱ったやつですから、もう130年は経ってしまっていましたけど、明治になってからですから、しかも、実は明治10年に歌が生まれたんじゃないんですよ。熊本のその民謡田原坂というのは昭和2年に生まれているんです。昭和2年に歌われたのが民謡になってるといのはこんな新しいのないでしょ。そういうことも、うーんというもんね。知られてないんです。そういうお話でございますね。

なぜかといいますと、民謡田原坂というのは先言った、植木の地方の方で農民の人が歌っているんじゃないんですか？というような、観光客の方の質問もあるんですよ。これは、西南戦争の中の田原坂の激戦を、経験して死んだ人は歌えませんが、しかも生き残った人が、俺達は若い頃こういう戦いをしたんだということをお酒を飲んだついでに歌い始めるんですね。ですから、酒盛歌・お座敷歌となっているんですよ。歌には、労働歌とかいろいろあると思いますけどね。ざれ歌とか、いろいろあるかと思いますが、酒盛歌の部類・お座敷歌の部類になります。

これは、なぜお座敷歌かというのも、また一つ時代の影響というのがあるんですけども、皆さんもご存じのように明治10年の西南戦争というのが始まりでございます。何から話してもいいんですけども、うーん。そうですね。

2. 元歌の歌詞・・・じんば・人馬・陣羽・陣場

雨は降る降る。えっとね、一番古いもともとの歌詞というのは、「雨は降る降る人馬は濡

れる越すに越されぬ田原坂」、それから「馬手（めて・右手）に血刀 弓手（ゆんで・左手）に手綱 馬上豊かな美少年」というふうに皆さん思われる、ご存じだとおもいますね。これも、少しずつ、歌詞が変わっているんですね。例えば「雨が降る降る人馬は濡れる」というので、今、人・馬と書きますでしょ。ところが、私が調べたのでは古いのでは人・馬ではなくて陣羽織の陣羽、雨が降って陣羽織が濡れるというのもありました。なるほどなあと思われるでしょ。雨は降る降る、陣地の馬が濡れる、ね。陣馬が濡れる。あ、ここには書くのはなかったか。（独り言）みなさんはレコードで、人馬は濡れると思われているけどもこれは、じんばは濡れる。（ボードに記入中）じんばは濡れるというのがありました。でも、もっと古いのは違うんですよ。「雨は降る降るじんばは濡れる」これは、こう書いてありました。「じんばは濡れる」、陣地が濡れるということです。雨が降って陣地が濡れるどうしてだろう？それから、田原坂公園に、この歌を私がそりゃ是非全国の人は田原坂の戦いを知らなくても民謡は知っているんだから、美少年像にこれを彫ってくださいと言ったんですね。

あの美少年像には反対しました、人馬は濡れる美少年が馬に乗ってこう刀持ってるんですね。いかれたこと。西南戦争であんなことは、戦いはありませんでした。錦絵もそういう錦絵が無数にあります。官軍の将校や薩軍の将校が馬に乗ってこう、つつこめ！とかね。でもあれ、近代戦ですから一日32万発とか34万発とか撃ち合ったんですね。それで、空中かち合い玉、空中衝突した玉が今でも無数に資料館にあります。そういう近代戦なんです。ですから、馬の上に乗っとったら蜂の巣ですよ。そんなことはありません。ですから、これは間違いなんです。このレコードになって、こういう戦いというのは戦国時代の戦い、みなさんは戦いというとすぐ日本人は戦国時代の戦いみたいなのを思い出されますけど、西南戦争というのは近代戦なんです。だから蜂の巣になる。日露戦争の、機関銃が出来とった時より田原坂の戦いの方が一日の撃ち合いはひどかったという。だって、田原坂に行かれた若い兵士が日露戦争まで、隊長になったり連隊長になったり大隊長になって、そう言ってるんですから。34万発空が曇るように撃ち合った。だから、空中で衝突するんですよ。0.0何秒、右と左から撃つから、そういう弾がある時に馬に乗って突っ込めというのは、もう蜂の巣になりますから。

だから、そういう間違いを歌詞と銅像と一体になって、間違いをしでかすようなことをしちやならんというのが、私の反対の理由でした。しかも言ってもらえるところは、人馬ってね漢字にさせませんでした。植木町にひらがなで書きなさいって。そうしたら、どれでもいいでしょ。ですから、というのはこれなんですよ。

陣地の場所・陣地の場所ってどういうことかといいますと、越すに越されぬ田原坂でしょ。それは、何で越すに越されぬかという、田原坂を北九州の方から来て田原坂を越えたら、台地の上にあがってくるんです。植木から京町台みんな台地の上を通ってるんです。三号線。今でいえばね。そして、右左が低くなっている。西里とかね清水とか。漱石が清水の黒髪を眺めたり、植木の方もそうですね、あのみんな西瓜の産地になってますけど、台地の上を通ってる。そして、新堀橋に繋がってるでしょ。熊本城とおんなじ高さの台地がずっとあると思ってください。そして、田原坂のところまで切れてるんです。ですから台地の上がり口なんです、田原坂。だから、そこで敵を防ぎましょうというのは加藤清正が言ったんです。

加藤清正の、藤公遺業記という江戸時代に、書かれた本があります。それに西南戦争で一番大事な、熊本城の北の守りで一番大事なところはどこか。加藤清正が4か所言った。江戸時代の本に書いてあるんですよ。藤公遺業記。加藤清正公がされたいろんな偉業の中にね。そして、ひとつは一番はもちろん田原坂です。それはさっき言いましたように、一階から二階への上がり口、そして、ここ新堀橋が繋がって茶臼山があってここに熊本城がある。ここが、この下が一階の方は筑後平野とか玉名平野。田原坂は上がっては、ずうっと植木台地・北部台地・新堀橋で、もうなんにも、障害物がないんです。地形的には。ですから、この階段をあがるときに敵の軍勢が来たら防ぎなさい。というのが、加藤清

正の戦略。

ですから、熊本城から TKU のところでもずうっと田原坂の方まで道を掘り抜いたんですよ。掘り抜き道と言います。大変ですよ。大変ですけど一度掘り抜いたら永久にそれ使えるんです。道が。道をずうっと、両側を低くして掘り抜くわけです。こういう道を、田原坂の坂からずうっと、馬々挟というところあるでしょ。高平台あたりまでずうっと掘り抜いてありますよ。もう出町のところには、町が出来てましたからできませんでした。そうすると敵がここを通るわけです。そうすると、よその国に来たらどこを通っているかわからんけど、この馬車の通るような道しか通らざるをえない。そして、こっちから鉄砲でも矢でも、こう山になつたり、石を落したり鉄砲や槍ですね。それで、敵を防ぐことができる。そういう、田原坂が一つ。

それから、加藤清正が次には、勢隠山と言います。吉次峠ですね。これは、吉次峠で篠原国幹が死んだり、佐々友房が、敵を防いで頑張ったり。谷村計介が、逃げてきたりしました。それから、植木山。これは田原坂の十七昼夜の後、植木山の戦いという。それから、向坂。これは乃木大将が軍旗を奪われました。以上、4名。

西南戦争ですね、びったし、加藤清正が予言したのがそのまま四大激戦地としてその通りになりました。それほど、やっぱり、田原坂というのは重要なところだったんですね。その田原坂を越すに越されぬ。越えて熊本城を助けにいこうとしたんですけど、この田原坂にずうっと横に塹壕を掘って上がらせないように守るんですよ。ですから、塹壕というのはここ。陣地の場所ね。溝みたいのを掘ってそこに鉄砲を構えて。攻略する方は、こちらの塹壕から攻略し上がって行きたい。守る方は、この持ち場を離れない。

鉄砲構えて、雨の中当時、非常に雨が菜種梅雨みたいだね。二月のずうっと雨の、半分以上くらい雨が降っていました。ですから、「雨は降る降る陣地が濡れる」んです。行った人しかわからない。行ってない人はこういう風におもってしまう。今の人はこういう風に思ってしまう。こういう風に思わないでも、こういうふうにした人もいる。あ、「じんば」ってというのは、歌で聴くなら陣地の馬だろって、陣羽織が濡れたんだろと、思ってしまうんです。ところが、行った人はちゃんと、雨の塹壕で水にこう穴を掘って鉄砲を構えているんですよ。そして、頭を上げないようにして敵を狙うようにして、そうすると雨が降るから塹壕の中は水浸しになる。

そうすると、薩軍や熊本隊が持っていたのは旧式の鉄砲ですから粉の火薬をいれにゃん。そうすると、雨が降ると火薬がしけるんです。だから不発になるんですね。そして、塹壕の溝の中が水浸しになるんです。そうすると、履いてるのは、官軍は軍隊ですから近代軍隊ですから革靴を履いている。こっちは、わらじ。わらじがぶすぶす濡れて田んぼの中にわらじが突っ込んでわらじが切れ、それから着物は昔の人は木綿の着物ですから水を吸って動きが悪くなる。雨の日は大変だなあと、歌った歌なんです。行った人しかわからない。経験した人しか。そういう、秘密が隠されている、「じんばは濡れる」。あの時は大変だったなあと、おれも若かったけど、よう戦こうたと言うんです。それから、官軍からするとこれは越す。なかなか越えて、熊本城を救出に行けない。越すに越されぬ田原坂ということですね。だから、一番だけとそういうちゃんと田原坂の戦いが、皆さんにおおかたを説明する、説明になるでしょ。

3. 馬手に血刀 弓手に生首？ 馬上豊かな美少年

二番の「馬手に血刀」これは、元歌は弓手に生首となっているんです。いや、後で聞かせますよ。「馬手に血刀 弓手に生首」となっているんです。外国人も驚いたそうです。日本人ちゅうのは、首狩り族だったろうか。いや、実際にそうですよ。これは、歴史上どこからね日本人に首狩りの種族の風習が来たか分かってないんですから。そうでしょ、なかなかないんですよ。戦国時代の世界で比較しても、それはアフリカかアマゾンの中の人ば首切った人はおるかも知らんけど。戦国時代のキリスト教なんか来たときも日本人が

首を切るのはビックリしたんですから。どうして、日本人は敵の首を切ってそしてあれするのだろう。田原坂までそうしましたよ。でも、それはどっからきたか知らないでしょ。なんか、東南アジアの首狩り族が来たかもしれんって。戦国時代もしてたんじゃないんですか。平家の時もそうじゃないですか。首を切るじゃないですか。あれどっから来たか誰も説明できないでしょ。「馬手に血刀 弓手に生首」持っとたら馬に乗れませんよ。そうでしょ、刀と生首持ったら馬に乗れますか？だいたい、乗れないんですよ。もともと、まちごうとる。ような話なんですね。

それから「馬上豊かな美少年」、なんで戦争なのに、私は思います。民謡大会の審査員もしてますけど、なんで「馬上豊かな」というのかね、戦争の最中にね。これは、士族の文化というのは滅んだということなんですね。心はやっぱり最後の武士でも、誇らしげだったんだろーと思います。だから、戦争の歌なのにね。悲しい歌なのかと思うと、馬上豊かに美少年が乗っとるなんて言うのは、これはあとからあの時おれたちは輝いていたなあと、士族の時代はあれで終わったんだなという思いがあるんじゃないでしょうか。そうすると、西南戦争は最後の士族の文化が滅んだ時という風に思いますよね。

だから、民謡大会でも聞いとってね。やっぱり「越すに越されぬ」のところを力を入れらす。「こーすに一(歌)」と。それは官軍の方にとってはそれが大変。それから、薩軍は雨が降って、わかりますか？ずぶ濡れになって弾は不発になる、木綿の着物は濡れてびしょびしょになる。官軍の方は、ラシヤ服といまして今の学生服ですからまだいい。木綿は水を吸うと動きがべちゃあとくっついてなりますよ。それから、わらじはぶつぶつ切れて冷たい二月の雨の中に素足でおらにゃんいかん。簡単なようにみえてそりゃ苦しさ、両軍の苦しさを表してるんじゃないんですか。早く仲間を、田原坂を越えて助けに行きたい。守る方は行かせてなるものか、寒い二月の雨の中で。そりゃ、二月頃田原坂に行ってみてください、あれ北の方があいてますから。ビュンビュン冷たい風が吹きます。

三月二十日の慰霊祭でも寒してしょんない時があるぐらいですからね。昔、私がNHK特集で俳優の山口崇さんという人と、一緒に出たことがあります。夜の八時頃ありますね。その時、ちょうどレーガン大統領の就任式かなんかで一週間延びたんですけど。やっぱり寒かった。寒いんですよ。ちょうど田原坂の、戦争があつた頃は、もう山口崇さんに、そのまねを消防車でこう水をわざと雨の中してみたら、がったがた震えてね。風呂を沸かして用意しとりました。近くの民家に。そして、すぐ飛び込んで。歯がカチカチいって動かない。ですから、そういう一番だけで、そういう、皆さん今まで屁のごつして聞きよんなはったでしょ。ところが、「雨は降る降る人馬は濡れる」でわかるじゃないですか。越すに越されぬもそう。今日はあんまり話しませんが。来週から、現地でもうちよつと詳しく話します。これを話すと歌の話が短こうなりますので。

でも、一番でそれわかりますよね。それだけのことがわかる。二番でもそういう、美少年というのは、なんかえらいよか男でしたかって、イケメンではありませんよ。みなさん。若い少年という意味ですから。緑の黒髪というのと一緒です。若い人が死んだなあとという思いですね。あるいは自分もあの頃は若かったなという思い。おれはイケメンだった、そういうのじゃない。そういうのじゃないんですね。若い命が亡くなった。仲間も死んだ。自分も若かったとそういう思いがありますし、それから馬上豊かなというのもよく考えたら不思議。激しい戦争でなんで馬上豊かな。でも、あの頃は心豊かだったという思いがあるんじゃないかなあと、私は民謡大会の審査員をしながら思いますね。どうして、馬上豊かって。聞きよつたら、不思議。えっと思ったときがある。当たり前のように聞いとって。まあ、そういうようなことが歌われておまして本当に一番と二番だけでね。ちょっと西南戦争の田原坂の戦いの細かいことじゃなくて真髓は語れるんです。一番と二番で、不思議なんですよ。私はそう思っているんですね。この歌が元歌のはじめという風に言われているんですね。

4. 「田原坂」はどのようにして生まれたか

どういう風にして、できたかという、さっき戻りますけどね。生き残った人が思い出して歌ったんです。まあ、すぐは歌えなかったでしょ。みんな辛いことはすぐには歌われん。ちょっと時間が経てば歌うと思うんですね。それで、どうして鹿児島で歌われたかという、西南戦争は薩軍関係が1万5千ぐらいは、加わっていますね。もっと多い二万近くじゃなかったかという話もあります。このあいだ、西郷さんの曾孫さんと話した鹿児島の人が何人か田原坂を訪ねて来られて、みんなえらい武士は下僕と言って、いわゆるなんていいですかね、武士じゃない人で、付き人をみんな持っているんですね。それをみんな連れてきたりすると、一人が三人連れてきたりしてるとかなりの数になるという風なことですね。

でも、一万五千としても一万五千で沢山も死にましたけど、鹿児島の人が多いじゃないですか。熊本は全部足しても三千にもならないぐらいですよ。ということは、鹿児島で帰った人も多かったわけですね。ですから、思い出して歌うのに鹿児島で歌われたって、民謡というのは誰が、自然に歌い始めたのが民謡ですから誰が作詞作曲したのではないです。それを民謡と言いますから、鹿児島ではそういうふうにして沢山の人が戻ってますから、たくさんの方が思い出す。男がつらいことで思い出してあんどきはって言う、まあ酒でも飲んだりした時ですね。そうすると、今度はどういう、そういう、思い出して即興で歌ってもいいけど節はどういう節で歌いますか？レコードとかカラオケがあるわけじゃないんですから、そうでしょ、譜面もあるわけじゃないんですから。当時、歌われとった節で歌うんです。そういうことになります。自分が耳にはさんで知ってる。だから民謡田原坂を、思い出したのをキンキラキンの節で歌ったとか、おてもやんの節で歌ったとかいうのも聞いたことがありますよ。そりゃそうですよ。自分が知ってるいくつかしか、知らないはずですから。いまなら、パッと、カセットのなんかを、熊本で歌われている民謡をでもカラオケにしてやつでして、俺がこれが好きだけんってさるっばってん。されんじゃないですか。せいぜい、飲みに行ったら、芸子さんに、「キンキラキンの節ば、節だけ三味線で弾いて」って言ってそれにのせて歌う。そういうことになるんですね。

鹿児島もそう、そうでございます。やっさ節とかおはら節とかの節にあれしてのせて歌ったと言われているんです。ですから、鹿児島で歌われたのも当然です。なん熊本だけじゃない。西南戦争の思い出の歌とか、民謡田原坂の激戦の歌というふうに歌われだしたといわれているんですね。ですから、ちょっと鹿児島の節でも今も残ってるのがありますね。西郷隆盛は男でござるとか、なんかいろいろ、江戸に行くとかね。あんまり、熊本じゃあれです。鹿児島ならではの節もあります。そういうのもあるんです。

熊本でそのさっき調べてたら、いつ頃、歌われたかなと思って。古い歌では、これに関してでは岡本源治という熊本隊に加わって生き残った人で、あとから、濟々鬘の舎監かなんかした人がそこに書いてありますけど、明治22年頃「風よ吹け吹け、雨なら降るな、俺の火筒の火が消える」ね。火筒・鉄砲ですね、さっき言った、旧式の鉄砲と言うのは粉の火薬をいれるんですね。ですから、風は吹いてもいいけど雨は降ったら、鉄砲が撃たれんごつなる。だけん、非常に苦戦したんですね。そうすると、官軍の場合は、弾薬と薬莢が一緒になってる、こう後ろから撃鉄を打てばいい、今のピストルか鉄砲と一緒にですね。撃鉄をぼんと打てばいいですから。ここに、玉と火薬がはいっております。どんなに雨が降っても、官軍の鉄砲は発射できます。薩軍関係の全部ではありませんけど、主力の銃は旧式銃ですから、先込め銃と言って鉄砲の先の方から火薬を詰めて、玉を入れて鉄砲の先から入れて撃つんですね。これもそうでしょ「風よ吹け吹け 雨なら降るな」風は吹いたっちゃよかばってん、雨が降ると鉄砲が発射できないと、明治22年ごろ、やっぱりこれも行った人じゃないとわからない。そういう歌があったのはわかってます。

そして、明治33年ごろ、「雨は降る降る 人馬は濡れる」こういう歌もある。書いてあるのもあるということですね。「人馬は進む」とか「人馬は濡れる」とか「ここは古戦場田

原坂」というのがあります。そのころは、もうすでに鹿児島でも、豪傑節。豪傑節田原坂と言います。鹿児島のはちょっとおはら節とかなんか「おはらはー さくらじま(歌)」と、これでいくんですね。「あめは ふる ふる(歌)」と、こんな感じなのが田原坂です。この節でこうして(手拍子)とれるようにですね。

ところが、熊本ではいつ頃から、もちろん自然発生的ですからいろんな歌詞があったと思う。でもそれがだんだん少しずつ修練されたり、みんなが歌い始めたのは、日露戦争頃だと言われております。なぜかという、日本は日露戦争で勝ってから、あるいは日露戦争頃に景気が良くなります。日露戦争に勝ってからのさらさら景気が良くなります。今、不景気ですけど、わあって景気が良くなるんですね。景気が良くなってから、発生したのがお座敷遊びという、終戦直後はキャバレーでしょ。ところがその頃はお座敷に行って飲む。芸者さんが三味線弾いたり、踊ったりしてくれる料亭がいっぱい。景気よかけん、出来たんです。

そこに行って飲みよる男たちが一人で飲むと悲しいことがあるけど、みんなで飲みよったらね「あんときはわかったね」とか「きつかったね」とか、酒も入りますからそれで歌い始めたというんですね。ですから、熊本の民謡も、だいたい明治37・8年頃から、みんながお座敷に行くもんですから、われわれも若い時はキャバレーに行きました。行ったんですけど。そういうものです。こないだカラオケブームがあったようなもんです。みんなそんな行き出し、そういうなかから盛んに歌われた。だからそこに書いてある。最初はキンキラキンとかおてもやんでも歌われましたよ。それから、豪傑節の節で歌われました。ざれ歌的に歌われたと。まあ、ちょっと酒飲んだ勢いで、勢いで歌い始めたということでございます。そういうふうになっているんですね。ざれ歌とか酒盛歌とか、お座敷遊び歌とか、ちょっと酒飲んで一杯飲んで歌う、歌でございます。もちろん、その中には行った人しかわからない思い出の話があるわけです。

ですから、これに歌われたのがもう一つ影響があります。日露戦争。さっき言った、景気が良くなった、お座敷遊びするようになった。それともう一つは、日露戦争でなんといいますか、もう戦意高揚といいますかね。そういう時代になりましたよね。そうしましたら、もうその時歌っている西南戦争に行った人たちはだいぶ経ってるから、二十歳でももう四十近いとかね。一番若い人でもそうですから。自分は直接戦争に行った人はいないかもしれないけども、俺達も昔、国を守って戦ったんだな、という意識がね。こう若いものが出征してロシア軍と戦う。戦意高揚するとき、そういう時と一致したのではないかと、特にそれが火をつけた。俺達も昔戦ったんだ。そうだ。忘れとったけど。そうだったんだ。今はロシアとの戦争だけど、昔は国の行く末を考えて西郷さんとそりゃ大久保と、そういう中での戦いがあったと、戦意高揚もあると。これは不思議なことに、西南戦争に、ずっと標柱が建てられたり、整備されるのはいつもそういう時です。日露戦争の時とか、太平洋戦争のちょっと前の昭和15~6年ぐらいとかね。その時に、戦跡がよく整備されるんですよ。不思議なもんです。西南戦争の官軍のお墓もそうです。最初は木のお墓ですけど、日清戦争頃で石のお墓に変わります。日露戦争頃になると沢山死ぬから、今度は階級ごとに高さがかえられます。そうすると、今度は太平洋戦争の戦意高揚の時には、薩軍本家跡とか、そういう標柱が変わっているんです。昭和16年とか17年とか書いてあります。日本人というのは、やっぱりね、そういう海外戦争の戦意高揚の時は、国内の戦争にも思いを馳せるんだと思います。まあ、そういうことがあるんだと思います。

それでこの頃に、今度は戦意高揚で新聞にたくさん現地で作った歌とか、都々逸とかです。新聞に載ったりその募集があるんです。日露戦争の歌ですよ。その募集があって、日露戦争の歌で歌われたのが、今度はあの民謡田原坂の中に取り入れられているんです。ということは、その頃、ずっと歌がまとまったという言うことがわかるんですね。例えばこれ「泣いてくれるな 愛しの駒よ 今宵しのぶは恋じゃない」これは日露戦争の時の、馬をひいとった係りの人の三平という人が万朝報明治37年に現地から、歌を送った歌がのっています。これが歌詞の中入っていますから「泣いてくれるな愛しの駒よ」こりゃ、

田原坂ば、馬でね荷物を運んどった人の歌じゃなかですか？と言われたことがあります。植木のお百姓さんかなんかの歌です。違うんです。日露戦争の軍馬を引いていた人の歌なんです。そういうのもありますし、それからここには、これは「一の城取 二の城落とす」あとはなんかちょっとあれですけど、そういう歌があります。これも田原坂の歌の中にですね。入れてあるレコードとかの、のちの歌詞もあるんです。これも「一の城取り 二の城落とす」あるいは「二百三高地」とか、ロシア軍の統治下です。要塞です。それが田原坂の歌詞の中に入れられているものがあるんです。明治とか大正の中にね。これは全然違うんです。

だって、田原坂でそがん「一の城取り 二の城落とす」なんか、熊本城しかないですもんね。熊本城を開放するだけです。そういう歌が取り入れられているのことが分かっています。一の城取りはこれは、新聞の日露戦争の募集歌といいますか、そういうので載ったやつがそのまま田原坂の歌の中にさっき言った、戦意高揚といっしょですね。歌いこまれていると。もう、どっちつかずんごつなつとる。戦争の歌、日露戦争の歌が入れ込である。日露戦争も田原坂もいっしょくたんになったようだ、わるくいうとですね。そういうふうなかんじになっているというのは、その時の状況がそういうことだったんじゃないかなというふうに思うんですね。

5. 「田原坂」を世に知らしめたものは・・・

そして、そういうふうな中からさっき言いました「雨は降る降る人馬は濡れる 馬手に血刀 弓手に手綱」というような歌が、これはもう動かしがたい、一番・二番みたいになったんだろーと思います。証拠には、そこの表を見てください。民謡のセールスレコードって、結論の方から先に言ってますけど、これは大正15年ってなってますけど、大正14年、14年ですね。すみません。大正14年に、愛宕山でNHKのラジオ放送が始まるんです。その時にNHKに呼ばれて、汽車で30時間ぐらいかかるかもしれませんが熊本の旭日券番の、留吉さんと朝菊さんでしたか、が行って、ラジオ放送で熊本の、その新茶屋とかで、田吾作とかの料亭で歌われてる歌を披露さしたんです。それが評判になったということですね。

ちょうど、五木の子守唄がたしか私たちの小さい頃、NHKのラジオでなんかラジオの放送の終わりがたかなんかに必ず流れよったんです。あれで一回、五木の子守唄ブームが起きたんです。昼ごろはお袋達が、「君の名は」の歌ば聞きよりましたけどね。そういうふうなラジオは、とても当時としては貴重でしたので、それで火を点けたというふうにも言われております。この頃には、披露するような「雨は降る降る人馬は濡れる」というようなのが出来たという風に言われております。

ただ、それが。どういう歌だったか分からない。ただ、この朝菊さんと留吉さん、昔はレコード歌手がおりませんから、カラオケもありませんから、結局その二人が歌った、大正14年に歌ってちょうど、その次に有名になったんですね。あ、熊本の田原坂の歌だって、そしてちょうど1・2年経って大正2年に、ちょうど西南の役50周年になるんです。その時に、もうすでにどうもその時から、それから2年か3年頃かよくわかりません。もう、鹿児島島の田原坂が、豪傑節田原坂が出来とったという話ですね。これも本当はみなさんも協力してほしい、レコードが見つからんとです。駄目なんですね。決定的に。ただそのそういうふうなのは何人かからか聞きました。

それで、ラジオで有名になったけん、西南戦争50周年に、田原坂の戦没者追悼、薩軍の戦没者の供養も兼ねて、新しい田原坂節ば作ろうというキャンペーンを、九州日日新聞がするんです。新しい田原坂節と書いてあります。田原坂節と書いてあります。そして、新しいと書いてあります。じゃあ、もともとののはなんかというときさっき言いましたように豪傑節の田原坂ではないかと思われま、鹿児島島の田原坂。鹿児島で歌われて、熊本にも少しは流れてきてたかもしれんですね。でも、熊本が主戦場で熊本の人も戦って、それは

追悼の意味で、なんかまとめようじゃないかというふうになって、そのキャンペーンを九州日日新聞がしたというんですね。というふうに言われております。

そして、同じこれは、振り付けとかそのあとになりますね。留吉さんという人が、古謡のよいところをひいてと書いてあります。こりや古謡というのは、古くから歌われていた、歌の節のことだと思いますね。節のいいところを取り入れて、三味線を弾く、メロディを作ったという。振り付けってというのは、すみませんそのあとになります。

それに、九州日日新聞がキャンペーンをしましたから、九州日日新聞の当時の新聞記者入江白峰という人が、1番と2番だけでは少なかけん、入れようとしたり。あとからさっき言った、「泣いてくれるな愛しの駒よ」とか「一の城取り」とかも混ぜてありますけれども。この入江白峰さんが、加えたのが1・2番の後ではこの「雨は降る降るも」人馬に変えたと、それから「草を褥に夢はいずこ」とかも言いましたもんね。「山に屍 川に血流る」というようなのを付け加えたという風に言われております。1番2番じゃちっとさみしか、というような。

それで、だいたい元歌が、明治2年の戦没者慰霊祭でどうも披露されたということみたいでございます。ですから、この時点では、熊本の田原坂節でございます。田原坂節とかいてあります。太おく九州日日でも、民謡田原坂なんて書いてありません。まだ作ってすぐですから。田原坂節。そして、それは対抗する意味で豪傑節田原坂というのがあったと言うんですね。それから昭和4年か5年ごろに、ここで振付をされたと。

なんでかという、熊本市内を練り歩いたというんですね。ですから、昭和2年に作って、ずうともう歌は歌われていたんですね、メロディとも思われます。なんでだという証拠がないから。そして、昭和4年か5年にそりゃーもう、まちなかを、火の国まつりんごつ練り歩きなっせって、いうふうになって、その時に練り歩くときには踊りがいるものですから、踊りの振付ができたという事のように理解しております。

これでまた評判になりまして、私が見つけ出したのが昭和6年ニッソーレコードから。レコードがでております。

ニッソーレコード A面田原坂歌：留吉・朝菊でB面が新豪傑節というので、豪傑節をアレンジしたやつ。ですから、この時点でも、1面2面は鹿児島節みたいなのはやっぱりどうしても、レコード会社の思索でしょうね。当時、やっぱりレコードは非常に貴重だったそうです。ですから、ある程度売れる見込みがなければ、またもちろん高価だったそうですね。レコード会社は出さないと、ニッソーレコードというのは、コロムビアレコードの前身かなんかだそうですね。そういう話ですから、たぶん、NHKのラジオでねちょっと火がついて、西南戦争50周年でちょっと1・2番からをうんとね。節が、歌詞が付け加えられて、そしてメロディも少しは修正されたのかも知れません。それから、今度は熊本の街の中を歩いてみても評判のようになる。こんなら、売るるばいとなるわけですね。レコード会社も納得するんだけど、まだまだ発表したばかりの田原坂節ですから売らにゃん。鹿児島もね。そうそう、鹿児島にも売らる。高価なもんですからね。そう簡単な今みたいにパッと出せるものではなかったそうです。ですから、そうなったんであろうということでございます。

さっき言いましたように昭和6年のニッソーレコードは見つかっているんですけど、ナンバーからして、もいっちょ古い田原坂がありそうだということで。これは噂ですけども、番号が分かっているのかな？キンキラキンと田原坂を合わせたものが、ひとつ前に出たんじゃないか言う話もありますけど。これも原盤がみつかっておりませんからあれです。ただ、何人かの方がもう一枚、昭和6年の前にもういっちょ出てるという話を聞いた。皆さんも探してください。熊日にいっぺん載せてもらいましたけど、見つかりませんでした。もちろんSPレコード友の会の方にもですね。この昭和6年の手に入れて、今、聞かせましょうかね。

ちょっと、聞いてみてください。初めてだと思います。

《音楽》

随分違うでしょ、だからね。愛宕山でしたのもね。この朝菊さんと留吉さんというコンビだから、たぶんこれに近いようなやつだろうというのが、想像できるだけの話であって、昭和6年のレコードなんです。でも、随分イメージが違うでしょ。早いでしょ。キンキラあの、宮さん宮さんまで入れている。忙しないような感じですね。これは名古屋甚句の系統のメロディだそうでございます。甚句系統のメロディだともいわれております。

こういう、昔のあれにこう書いてあります。昔はキンキラキンの節や豪傑節で、日露戦争の頃から盛んに歌われていた。昭和2年の籠城50周年祭を前に、西南の役50年を前にして新しい田原坂節を作ろうということになって、古謡の良い所を引いて作ったと。三味線は留吉さんがやったと。そういうふうに書いてありますね。だから今言ったように50周年記念でこれに近いようなやつで歌われたんだらう、というふうに思われるんだらう。

ただ、意外とイメージが違うんじゃないかと思われませんか。これも変わってきてるんです。だから、鹿児島の場合はちょっと荘重な感じ、男っぽいですね。やっさ節やハイヤ節みたいな。「あめは ふる ふる (歌)」、こっちは早いでしょ。ところが今、民謡大会でしているのは「あめは ふる ふる じんばはぬれる (歌)」と、というような歌ですよ。明るいですよ、熊本の民謡は。なんか、ちょっと元歌はだいたいそういうような感じだと思うんです。これが元々の一般の人が歌っている民謡田原坂ですよ。これが、歌手が歌うとちょっと、もうちょっと民謡調と言ってちょっと思い入れがちょっといれてありますよね。そういう歌にかわっていくんですよね。これじゃちょっと、あんま忙しない。情緒がね。だから、私が歌ったようなやつとか、もうちょっと歌手は上手ですから。情感を込めて、でも、基本は熊本の民謡です。「あめは ふる ふる (歌)」です。1番と2番だけ、民謡大会で歌ってますけど、これで田原坂のその私が入れた、私が最初に言った、戦いはどういふものだったかを、思いを込めて歌うっていうのはとっても難しい。難しいそうです。あの、鹿児島の方のほうが歌いやすいって。熊本のね明るさも失わないで伸びやかなところも失わないで、さっき言った、「越すに越されぬ」とかね。美少年、たくさんの美少年が亡くなったとか、思いを込めるのはとても難しいとおっしゃいます。民謡の先生が、福岡の先生とかなんかもおっしゃいます。非常にへたくそじゃ、歌われんって。下手が歌うとほんなこつ、熊本の民謡の節で歌うとなんか間延びした歌になってしまう。うまく歌うとやっぱり上手。なかなか歌い方が難しいのが、熊本の民謡でございます。

今のような歌が、だんだんちょっと思い入れを深く、情緒を込めてスローテンポになっていきます。例えば昭和27年の力栄さん、昭和27年のきよみさんですね。レコード歌手がずっとこう歌っているんですけど、そこにもすこし書いてると思いますが、表の中にもですね。

それから昭和9年の雑誌じゃ、田原坂の歌なんかしてなくて講談社では隊長さん節となっている「一の城取り 二の城落とす」昭和11年には、今度は昭和11年になると、今も築城400年で、観光キャンペーン的なみたいな…、どうも、それを観光に生かそう的なことがあってね。九州新聞今度は熊日と対立して…、九州日日新聞は国権党ですから九州新聞は民党派っていいですね。のちの、政友会の新聞です。この対立しておりましたけど、このかたいっぽうの、九州新聞がキャンペーンを打つんです。昭和11年に、新歌手募集。そして、新しい命を吹き込んで全国的にまた売り出しましょう。熊本の民謡って、まちっとぱっとせんけん、まちっとぱっとしよう。熊本は観光は下手くそですからね。そういうふうな意味もあつたんだらう。この時すこし、阿蘇とかなんかも入った歌詞もね募集であるから、ずうっと観光地めぐりにみたいな田原坂になっているのもあるんですよ。ある、あると思います。そういうのが募集されました。でも、もともと民謡は、ながれとしてはそういう鹿児島の豪傑節田原坂があつて熊本のちょっと元歌、速い、ちょっとテンポの速い田原坂ですけど、すこしずつテンポが遅くなって、すこし、情緒を込めた歌い方になってそして民謡調田原坂になります。ちょっと続きはこれ出てくるかな？ちょっとしま

しょうかね？どこに入れとるか分らんけど。

《音楽がながれている：講評中》

ちょっといくつか聞きましょうかね。これ、まだあらがはいっていますね。だからこれは、元歌が少しゆるくなっている状態。また、この宮さん宮さんもあれもはいつとる、まだ影響がある。これはたぶん、古いほうからずっと私が入れてる。変遷が分かるから。このこまは、日露戦争の馬ですから。これレコード的に恋なんかいれてある。まだ、生首ね。なんかまだとれません。よーと、酒飲みよつとこに生首なんてね。だから、すこしずつ影響が取れて行くんですね。だいぶ思いを込めたような感じになってきましたよね。これは入江白峰さんのね「山に屍」が入っていますよね。これは結局、キャンペーンの九州日日新聞の時入れたっていうんです、記者がね。肥薩の天地っていうと、薩軍がずうっと鹿児島県庁までまた逃げていくでしょ。もうちょっと、なんか。これはほら、豪傑節ですね。節はね。おはら節と一緒にね、ここ。おはら節の手拍子と一緒にね。これが鹿児島田原坂に近い。違いますでしょ。これで歌ったら、鹿児島の田原坂を歌っていることになりますからね。もう、この頃になりますと「あら」も入ら無くなりますね。生首もなくなる。ただもう、いろいろ歌詞がね。レコード的な。このころになると「美ち奴」とか「花奴」とか「力栄」とか歌手が出てきますかね。芸子さん上がりのレコード歌手。清正公さんまででてきた。こういうふうにして、変わってくるということです。

《音楽終了》

まあ、もうちょっとまた後でありますけど、ちょっと民謡田原坂も少しゆるくなって、この歌手が歌うとちょっと思い入れを入れたような歌になってきます。これを普通、私たちが民謡調田原坂と言っているんですね。熊本の元歌の方をちょっと、忙しい感じからだんだん、情緒を込めた思い入れの方が強くなる。でも、もともとの「雨は降る降る(歌)」と言うのは変わらないですね。やっぱり豪傑節とは違った節が、二通り節があるということです。

それからあとから、昭和29年に戦後、レクレーション大会があった時に音頭調田原坂のが、赤坂小梅さん、これを植木町で、お祭りの時はみんなこれですよ。道行踊りしやすい様に、基本的なメロディーは田原坂と変わりませんが、音頭調になっている歌があります。これはそのレクレーション大会で何をするかということで、田原坂は今度はあんまりゆるすぎるけん、いうて、最初の元歌ぐらいはやいならいいけどあれはちょうどテンポが、踊ったりするには合わないということで、あの赤坂小梅さんが歌った音頭調田原坂、植木のも植木町は運動会とかなんかで皆、これを今も使っているんですね。そういう風に変ってきているというのが、民謡田原坂でございまして、田原坂の元歌の中に実際には、田原坂戦のエキスが入っております。

それから民謡田原坂も、これ出田先生に二つ、基本的には変わりませんが、「雨は降る振る人馬は濡れる」と「雨は降る降る人馬は濡れて」っていうの、「て」て歌う人と、「る」と歌う人と二系統あります。それはもしあの歌う人がおったら、どっちもそれは認めとります。どこでそれを、「雨は降る降る人馬は濡れて(歌)」て言うやつですね。どちらもいいように、そしてその一番と二番だけを歌うのが、熊本の民謡大会というようにしてこれを全国に広めたい、いう風に思っているんですけど、先程言いましたように、なかなか、鹿児島の民謡が歌われております。有名歌手が東京なんかで歌う時に皆さん聞いて下さい。時々、いわゆる歌謡の歌手の方の人たちが歌ったりしますね、もちろん民謡の人はね。そうすつとね、意外と豪傑節田原坂の方が多いですよ。

近頃は、NHKさんは熊本でしたり、九州でしたりする時はなるべく熊本の田原坂節で歌わせているように思いますけどね。全国的にはあっちの方を田原…皆さんもそっちのほ

うを田原坂と思うておられるとでしょ。そのほうが多いですね。ぜひ熊本の田原坂というので、熊本の人は歌っていただきたい。まあ、歌えるようにしとってください。へたくそでも節はだいたい、だいたいの田原坂の節が歌える。

それから田原坂の歌を、歌って田原坂戦を説明してやればなおさら、ね？いいんですね。人馬ってこれですよ。ね？越すに越されんというのはここを田原坂を上がってこの上がり口で、敵をたたかんともう全然、山・坂は無い、下からの敵が来たときに、そういうことなんです。これは掘り抜き道という掘りぬき道をして、その、例えばずうっと出町から、TKUの辺まで、あの辺の泥はどこに持っていったと思いますか。

土は？余るでしょ？掘りぬいたら。余った土はどこに持って行ったか調べてびっくりしました。江津塘、江津塘の塘は太いでしょ？今でも道路が通るくらいでしょ？あそこはそして下は水が出とうね。鯉の養殖なんかを昔しておりました。あれを防ぐためとに、にはこっちの土を持って行って、あのスケールの大きい江津塘、あそこはやっぱり下はば一っと低くなっておりますから、江津湖の水があれば、江津塘の周りのあの辺はずうっと水浸しですけど、頑丈な道路を作ったおかげで今も、悠々と、川塘を車が走れるんですね。何にもしなくて。でも昔馬車ですよ。馬車に泥を積んで、ダンプカーじゃないですからね。やっぱりそのスケールが雄大ですね。加藤清正のされることは、雄大だと思いますね。

それからこの民謡の、15年前だったかな？私が熊日の記者に言ってSPレコード友の会があると行って、その友の会の方が、自分が一枚持ってるって、そういう古いレコードも私も探してるんだという風に、言われたことが思い出しておりますけど、その時、熊日に載った時にこの留吉さんの親戚の人が、あの留吉さんを知っている人が、10年ぐらいまで生きとりました。電話がかかってきました。芸者さんで、太平洋戦争の時は、上海かなんかに行っとなはった。そして引き上げてきてから、こげんいいよなった。「うちのじいさんかなんかが、お妾さんにしりましたもん。そしてか、じいさんよか長生きして10年前まで生きとんなはった。ばってん、わたしや、何も聞いとりませんでした。もしも、作ったては、自分がうとうたつが、初めてとは言いよったばってん。知っとならばこがん、記事ば見てん、それなら聞いとけば良かったって」ね？いきさつをね。そして今言うた様に最初の節はどぎゃんだったろうか。レコードん時はどがんなったろうか。どこで歌われたのかまとめていったのか、メロディーはどうだったんだらうかちゆう事でわかるんですけど、それはなかなか分かりません。レコードとその記事に載ったようなやつを、総合すると、そこに私が書いたような、節になるという事ですね。そういう事になるわけです。

質問何かありませんか？ですか、これずうっとテープに聞くと、まだ面白いんですけど。ここに書いてここにちょっとあたしが書いておりますがね。昭和6年が、留吉さん。それから、昭和9年美ち奴さん、それから昭和11年花奴さん、美ち奴さんは太平レコード、花奴さんはビクターレコードと、それから昭和27年が力栄さん、昭和28年がきよみさん。それから、昭和29年が赤坂小梅さんのレコードなんかが出ているんですね。そういうようなので、ビクターレコードとか小梅さんはコロムビアレコード、力栄さんときよみさんはビクターレコードで、美ち奴さんは太平レコードから出していることが分かっています。

6. 馬上豊かな美少年のモデル I

何か質問はありませんか？はいどうぞ。

質問者：以前田原坂、先生の話ではないんですけど、聞いたことがあったんですが、薩軍がもちろん今さっき言いましたように下方の戦いだけじゃなくて、夜は鉄砲はもう目くらうちになってしまっていて、結果的には切り込みが主だったんだと思いますけども、その時に官軍は容易に分かったと、何故かという、

薩軍は、切込みする前の晩は、ドンちゃん騒ぎしてその飲みかたをやって、そしてそれが終わってから切り込みにくるから容易に分かって、準備ができたという風なことがありました。それで、この最後のところに馬上豊かな美少年の件ですけども、これは、西郷小兵衛だとか言うこともあります、まあ、色々な説がある…

美少年のモデルね

質問者： どういうふうな…

ああ、美少年のモデルですね。それは、色々あります。だけど私が、観光客の人とか何か聞かれた時には、美少年というのは一般のさっき最初言いましたね。田原坂でなくなった若い兵士と。若い兵士ももう今になっては官軍の兵士だろうが薩軍の兵士だろうが、あの若い人が死んでいったんだという風に受け止めてください。イケメンでもありませんと言っております。ところが、一応、美少年のモデルと言うのはあるんですね。これは、一つには高橋長次と言いまして、熊本隊の人でございまして、ここでは話さなかったかな。どっかで去年話したんですけども、田原坂の薩軍墓地の近くが、薩軍墓地と言うのがあります。そこのところが熊本隊の一つの護りだったんですね。受け持ち区域でございました。そこを護っていて、3月20日が、敗れる前の3月18日頃だったと思いますけど、敵陣にやっぱり切り込んで行くんですね。そして、その中に高橋長秋という若い兵士が切り込んでいって、盛んに官軍の兵士を切ったりしますので、周りの熊本隊の陣地の中に隠れて鉄砲持ってた人が、お、戦場の美少年と声を掛けて、役者に声を掛けるみたいに掛けた、いう記録がございます。その人は、その内に官軍の兵士に撃たれまして倒れるんですね。それで、倒れまして、病院に連れて行こうとしましたら、刀の鞘を戦場に置いて来た。それじゃあ武士として、鞘を持って来んといかんから取りにいく。重傷をおっているのに言うたけんそれはもう、後で取って来るけん。言うて、病院に運んだら、途中で息切れた。そしてその人の懐に、お父さんお母さん、自分は若くして死ぬかも知れん言うのでごめんなさいというようなことが書いてあったという記録がございます。これは戦場で、美少年と呼び掛けられましたから、まあ、ひとつのモデルですね。

それからもう一人は、これは、薩軍の村田新八の子供で、村田岩熊ていいますけども、その人は、お父さんは、欧米使節団岩倉具視とか、伊藤博文とか大久保利通とか、欧米使節団に行きます。欧米に行った人と、留守政府を守る西郷とか江藤新平とか大隈重信とかその二つが留守の人と欧米を見てきた人とが別れるのが征韓論なんです。指導権争いの形になりますね。それが西郷が政府を去ることになります。それは、フランスをモデルにするかドイツをモデルにするかという日本の国の行く末の方針です。まあ、いつかまた話したいと思えますが。

7. 欧米使節団によってもたらされたもの

ちょうどフランス革命が終わって、フランスがものすごく荒れとったんです。金持ちの所を襲ったり、市民革命という聞こえいいですけど、略奪とか暴行とかがはやった。

ところが、幕末の頃はフランスが一等国でしたから、日本は全部フランスモデルでいったんですね。西南戦争のときも官軍はフランスの、フランス式の兵隊ですよ。ですから田原坂を攻めてくる時も、アラモの砦の戦いみたいに、横こう一列になって、こうして行くんですから、鯨波ち。鯨の波で鯨波といます。皆さんにちょっとそれを、あの後では、フランスとドイツが戦争して、西南戦争頃、フランスが勝つ、あの、ドイツが勝つんですよ。

だからすぐ明治13年にはフランス式からドイツ式に変えるんですね。で、その後に、

陸軍はみんなあれドイツ式ですから、ドイツ式は小隊とか中隊に分かれて戦うんですね。フランスは、こうアラモの砦みたいな戦いです。メキシコ兵が、あの攻めて、そう言うなので、変わるんです。全部フランスのモデルでいこうとしていた江藤新平も、ところが、フランス革命で荒れてた。あ、フランスモデルになったら、こぎゃんなんとだろうかと、共和制といいますね。

それをそしたら、隣のドイツは、非常に安定していたんです。ビスマルクという人がおって、ドイツはドイツ皇帝がおりますからね。そしてこれは欽定憲法といまして、皇帝の元に憲法ができています。これは、ゆるぎなくどんどん発展して、隣のフランスはしちゃんかちゃんになっとたのに、ドイツはしっかりしっとたんです。これは、フランスをモデルにしたらいかん、ドイツをモデルにせんといかん。ちょうど日本は天皇がいるじゃないか。今までフランスをモデルに、熊本の井上毅なんかが研究を最初はフランスに行っていたんですよ。そしたらドイツ式でいこうと、ドイツ式のほうが日本にふさわしい。

それともう一つは、ヨーロッパに行く前にアメリカとかアジアの船で行きます。植民地を見とったら皆、植民地になっとった、欧米の。急いで強い国家を作らんと日本は植民地になるんだとその二つですね。これは外国に行っていない人は気付くから。そうすると、帰って来て、急いで近代国家にせないかん、ドイツをモデルにせないかんと言う人と、なんばそが急ぎに帰ってきたら言い出すとかって今んまんまでええじゃにゃあかて、たくさんの士族が失業しとるじゃないか、まあ、そういうあれですね。今の話で、まあ、その話するとまた一つの講座になります。

もう一つ付け加えると、今ちょっと話がありました。田原坂の戦いは、最初はまた現地でも話しますけど、これ、官軍が勝つみたいと思うでしょ。新式の鉄砲や大砲を持ってますから。それをどんどん大砲を撃ち込んだり、鉄砲はもう、雨にかかわらず撃てるんですから、鉄砲の弾も、もう沢山持ってきてますから。薩軍のほうは鹿児島で奪って来ただけですからね。火薬庫を襲撃してそして数も少ない。ところが、じゃあ官軍が勝ちそうなもんだけど。雨も降って不発弾になるし、不利なばかりですよ、薩軍には。ところが、薩軍は夜になると切り込むんですよ。こういう下の陣地がやられるでしょ？ところが、奪う、昼奪われた陣地が夜に真っ暗になってから、こっちのまだ奪われていない陣地から切り込んで行くんです。夜襲をかけるんです。そうすると徴兵の兵隊というのは鉄砲を昼は撃つ、目標があるから撃ちます、元は百姓、町人ですから、徴兵制で、長男以外が兵隊検査でなるんです。鉄砲の撃ち方は知っとる。でも、わーって切り込まれると目標は見えせんから、逃げるんです。

一つだけ強い兵隊がおりました。近衛兵です。近衛兵というのは薩長の出身の人で、会津藩とか色々元の士族と戦った人がそのまま、陸軍が出来ると残って近衛兵になりますから。その最初の陸軍とは近衛兵です。皇居を守る。それがこんどは全国の鎮台になりまして、鎮台の指導者になって行くんです。近衛兵は何が上手かという銃剣術、日本刀でわーって来た時に、もう明治維新の時から銃剣でばっとならってそれに対抗する白兵戦の仕方を知っとる。

ところが大半の黄色い帽子の徴兵は、目標がなくなるともうそれをしきらんから逃げる訳です、怖くて。ジュワ一と暗闇で、切りかかってこられるともう、音聞いただけでも、恐ろしゅうなる。白兵戦になれないから、官軍のこれは昼は勝つ。どうしたら勝つと思うたら、昼大砲を撃ち込んで、兵隊が攻めて、陣地を取ってもまた朝になると戻る訳です。切込みをされて。抜刀遊撃といいますね。特に薩摩は示現流でチェストーって行ってから行きますね。真正面に気合だけですか。チェストーって行って切り込んで行く訳です。逃げ足も速かったけど。あれは遊撃戦ですからわーって攻めて不利になったらば一と逃げるんです。薩摩はそうですよ。あの、逃げるのも逃げ足も速い。

ですから、さっさともう吉次峠で、あがんいいよってから、逃げる時は薩軍はちんちくりんで逃げる。はにかいて。薩軍の戦い方はそういう事です。有利って見たらワーって行くんです。まあ、そういうことで、どうしたらいいか、ちゅうので考えたのが、ああ、

そうか戦場の警備に警察がおります。警察はこれはあの失業対策で作ったんですね。そしてその警察は元士族です。これは色々話すと長くなるんですけど、最初は失業対策で作りまして、三千人作った時は、これはあの鹿児島島の常備隊という、あの芋侍を2千人連れて行きました。そして千人を東京で募集して三千人で警察を作るんですね。そしてあの川路というのが、大警視で抜擢されるんです。

今度、5月に、鶴屋ホールであの警察の人達に話すんですけどね。この話は、そういう風にして警察制度を作るんですけどね。これは面白い話で、鹿児島に西郷さんが帰ってから、大久保が実権を握ります。大久保は、実権を握る時にどうやって握るかといいますと、これは裏話ですけど、大蔵大臣になるんです、大蔵卿に。そして大久保がしたのがあれ、予算編成権ですよ。この間まで大蔵省が全部予算を握ってりましたでしょ。財務省と金融庁に別れる前。あれは大久保がしたんです。予算権を大蔵省が握る事で全省庁支配できるから。大蔵省が、大蔵省に陳情に行かにも他の大臣もだめ、大蔵省がOKせにや予算がとれん様にしたのは大久保です。

それから、フランス式では江藤新平が警察制度は法務局の下に置いとりました。司法卿でね。ところが、江藤ば追い出したんです。何でかって言うと、江藤新平は、あれはちょうど、西南、あの西郷が、下野するときに欧米に使節に岩倉とか伊藤とか、いっとる時に長州の、汚職を追求しとったんです。法治国家にするから、大臣といえでも悪いことしたのは捕まえていい。ところがそれが嫌だったので、あれは伊藤博文と、長州の伊藤博文とか大久保が組んだんです。そして大体は、江藤新平を追い落とすつもりにです。ところが西郷さんもはりかいて辞めたのが大体の実情ですね。裏話としてはね。ですから、それ以降に政府の高官の汚職追及はタブーになったんです。田中角栄まで。いや、そうですよ。

それから、もう一つは、警察を今度は大久保は内務省内務大臣も兼ねました。そして警察を内務省に移したんです。これから治安警察を始めるんです。西郷さんが西南戦争を起こしたのをなんて読むんですか。「政府に尋問の問これあり」ですから。何で俺ば暗殺しに来たかってですよ。そうですよ。要はあれだけ、日本最後の乱なのに、乱を起こした名目は政府に尋問のかどこれあり、政府に何ば俺に暗殺団ば仕向けたか。それを問いただしに行くというのが理由ですから。そんな理由なんか無いでしょう。士族の反乱を期待するんだったら今で言うなら政府はこう言う、失業した何万の士族に対して何も配慮をせんと、経済的な配慮をしないと今の高齢者や何かと一緒に、そういうことが執政だとか、数人の役人が威張るととか、そういう風なことをせにやいかんはずです。まあそれもまあ、一つの謎なんですけどね。

そういう時に、実は川路大警視がまた三千人動員、増員するんですね。その時に、会津藩とか、いわゆる薩長の官軍と、明治維新のとき戦った人を入れると言うんです。これ、新撰組も入れているんですよ。新撰組も入れている。それから会津藩ではほら阿蘇で死んだ佐川官兵衛、あれは会津藩の家老ですからね。家老を入れる時には、こういう戊辰戦争の復讐ば、復讐はしたくない。それから会津藩の人は、あの下北半島に追いやられて、非常に生活が苦しかったんです。そういう食われないものがおったから佐川官兵衛は家老であって、三百人引き連れて来てよかなら、若いもんが職が無いからっていうて、官軍のあの副隊長になったんです。四百人ぐらいの部下しかいないかな。元家老ですから、会津の家老というのは。そして阿蘇で死んだ。

その様にして、意識的にもう入れてますね。警視隊にね。ちょうど田原坂で切り込んで、なかなか有利にならない。その時には目には目を、向こうが切り込んで来るなら、こちらは警察は警備だけするんですよ。戦場の警備とか弾薬運びの護衛ですたいね。警察はそうですから。この人達を、かた寄せたらちゅう、いうふうに、最初から思とったと思うんですけどね。でも結局、商売としての戦争するのは陸軍が、本業ですから。陸軍の面子もある。山県有朋なんか。ですからどうしたかというて、特攻隊と一緒にですよ。もうイライラしとる訳です。田原坂のそばで戦場警備をする元士族は、鹿児島島の士族に切り込まれて逃げるんじゃないですか。鉄砲を持った徴兵の兵隊が、ええいもう、我軍は、官軍はいつち

よん駄目だな、だらしがないなと思つとる時に謎かけていうんですね。もしもな、うちにもそう言うふうには刀を持って薩軍に対抗するもんがおつたらな、何といきやせんかなて、言うのをわざというたてて言いますね。警視庁の幹部の幹部の方はすぐに志願する。志願しにきてきたらこういうんです。陸軍がおるけん、あんたたちが刀一本で、もう自分たちで志願するなら許そうって。

そりゃ、戦死率が高くなりますから特攻隊と一緒にですよ。志願してくるなら良いじゃないですか。そのときに陸軍の面子もあるから、その代わり、刀一本で持って戦う気があるかっていうたら、そりゃあもう自分達が今度は官軍ですから賊軍ですからもう戊辰戦争の恨みを晴らしてやろうと思って、3月の14日に最初に警視抜刀隊長、切り込みます。そうゆう様なことがあって、実は話を変えると、抜刀隊の歌という、日本最初の軍歌って言うのは、抜刀隊の歌ですよ。「われは官軍わが敵は～(歌)」っていうやつです。これが日本最初の軍歌、抜刀隊の歌。でも、日本最初の軍歌は抜刀隊なんて警視庁ですから、陸軍じゃなかつたから、それが日本最初の軍歌ですよ。

そして今度は日本最初の、行進曲が扶桑歌行進曲、当時は陸軍はフランス式でしたから、シャルルルっていうフランスの、今日あの本を預けました。ここに、本のコーナーにこれに西南戦争と洋楽、あの音楽というのを書いてありますので。これに詳しく書いてあります。

今の話で、そうして、扶桑歌行進曲と日本最初の行進曲ができます。それと、最初の軍歌を合わせたのが、分列行進曲というやつです。皆さん例えば、学徒出陣の時に、神宮外苑で、「チャンチャチャチャンチャンチャンチャンチャチャッチャッチャわれは官軍わが敵は～(歌)」これが日本陸軍の歌です。海軍は大本営発表という、軍艦マーチですよ。今の若っか人はパチンコ屋のメロディかもしれません。陸軍は、この分列行進曲をします。最初と終わりに扶桑歌行進曲「チャンチャチャチャンチャンチャンチャンチャチャッチャッチャ(歌)」って、間で、「われは官軍わが敵は～悠々夢想のなんとか(歌)」って、西郷さんを歌ったんですね。どうしてそうだったかという、田原坂の戦いの時わ～っと大砲で新式の大砲で撃ち込んでますね。下の方を狙う。一時間ばっか砲撃するんです。そして、今度はわーっとフランス式で兵隊が一行になつてこれを奪います。って、奪ってねその後、とか、奪う時に、前線を警視抜刀隊と一緒についていくんです。そして、もう入り乱れたらお互いに、鉄砲は撃ち合い撃たれませんからね。その時にまた銃剣で徴兵の兵隊は好きなわけです、これを。だからそれで、警視隊が前に出るわけです。それから陣地を守ると時も前線の時は刀を持った警視庁巡查がおるわけです。そうすつと、また取り戻せるだろうと思ってわ～っと夜襲をかけてくるとワッて、元士族が刀を持ってそれに前面に出るわけです。そうすつと、切り合いになりますね。とうとう奪えなくなるわけです。わー、今まで、すぐ黄色い帽子の兵隊が逃げて、奪い返しよつたけん、昼はなんなんてことはないと思うとよ、ちょっと後ろの上のほうに兵を引かせていけば良かったんです。ところがそれで今度は官軍が、薩軍が奪い返せなくなる官軍が少しずつ田原坂の丘の上近づいていくちゅうことになります。

これが、さっきゆうた日露戦争なんかでは、田原坂で戦った、実際にそれを経験した人が、ああ、抜刀切り込みや有利だなと思う。それが日露戦争の時に乃木さんが五千人とか八千人死なせた白襷隊になるんです。白襷の形をして、ロシア軍の、当時はもうコンクリートで統治下を作つとります。そして、こういう銃眼を細くあけて、それに機関銃、バリバリバリバリ。

ところが、あの頃の、大隊長とか乃木さんだけじゃなくてほとんどが、西南戦争の経験者だといいますね。それがもう大隊長とか連隊長とかになっているわけです。その頭の中に、そのいかに切込みが有利かちゅうのが離れんわけですね。だからしてしもうた。だけん、あれはちょっと乃木さんとしては、戦争は下手なやり方だった、になりましたけど、あれはもう落としたり英雄になりましたからね。二百三高地を落としたり。そういうのが日本軍の伝統になっていくんです。どうして、日本軍が抜刀隊の歌を、一番に、それだけ、

して抜刀隊を大事にしたかということ、本当は近代戦で勝ったんですよ。組織力で勝ちました。徴兵は一人一人は、それは旧士族の方が勇敢だったでしょう。ところがやっぱり、何で勝ったかということ、分析すると組織力で勝ちました。江戸時代というのは個人の武士の時代、あるいは個人の時代ですよ。近代というのは組織の時代なんですね。色んな団体や、会社や、会社なんかでも話します。役割分担をしていくわけです。そして、それぞれの弱いところを補っていく、あるいはカバーしていくというのが組織。組織にそれに近代兵器で勝ったんです。ただ、唯一、勝ちには勝った。やっとなんか勝った。何でかって言うと、西南戦争の戦死者は、薩軍が七千二百ぐらいかな、それと、官軍が六千八百ぐらいです。あんま変わらん。圧倒的に薩軍がうんと逃げていく方が背中を見せますから、鉄砲で背中を見せると大分死ぬんですよ。田原坂も破れた時は、植木の方に逃げていく時、背中を撃たれて死んだ死体が道にボロボロあったというぐらいですから。背中を見せたほうが多く死ぬんですよ。ところがあんま変わらん。やっとなんか勝ったという思いがあったんですね。

そして、やっとなんか勝ったんです。陸軍がどう思ったかということ、精神力がこれに、加わったら、強い陸軍になると、課題は精神力だなと思ったんです。ですから、勇敢なね抜刀隊の歌を軍歌にして、これを、後々まで叩き込んで、強い軍隊にしようと思ったんです。それから、日本軍の精神主義が始まったと私は思っています。ですから統治下とか、例えば、南の島で太平洋戦争の時も日本軍が、もうこれこそ分かっとなんか、さっきはわかっとなんかちゅう話がある。もうそろそろ、玉砕で突撃してくるのはアメリカ軍は分かっとなんかから、鉄条網をしいて、照明弾を持って、機関銃で待ち構えとなんか、もう最後の足掻きで必ず全員突撃ばしてくる。バリバリバリ～ってそれで終わり。ガダルカナルでも何でもそうです。これまで尾ば引いとなんかです。本当は近代兵器と組織力で勝ったんです。これが、やっぱり真珠湾でもそうですが、航空兵力で勝った。でも必ずそれを、やっぱり精神力に引き戻してきて、精神力ですると、合理的な理屈を言うやっとなんかに、そりゃ、精神論がなかけんと。足らんといいよるんですね。

こりゃ薩軍もそうですよ。薩軍も、最初、全員全軍陸路北上というのを決めるんですね。このとき陸路北上じゃ、とても当たり前ですよ。一番喧嘩で強い薩軍ていうて、一万五千あるけん同じ一本道ば東京まで行くならどこまでいきよるか分かるじゃないですか。どぎゃん徴兵が弱いていうたって、全国に鎮台があつて、何万人ておるんですから。もう明治10年の段階で。その人達が一本道で行くなら次々に、防ぎに来るってわかっとなんか。だから大隊ごとに分散して、士族の放棄を頼むのなら長崎に一個大隊、大阪に一個大隊、北九州に一個大隊とかね船に乗せて、乗っていこうと錦江湾に船が八隻ありましたとそういう意見が出た時も、これば、なんていうかって言うと、鹿児島でもそうですけど、そぎゃんゆうてお前たちや命が惜しかろう、こういうとおしまい。命を惜しむとだろつと言われると薩摩武士は一番嫌なんですね。そうすつと黙ってしまふ。

太平洋戦争の時もそうです。そぎゃん、あれするとそがん意見で皆封じ込められるんですね。精神力が足らんと、精神力があれば何でもなるとか言い方ですね。ですから薩軍の場合も田原坂なんかの戦線で、兵隊が兵力が足りませんという、死ぬまで守れちゅう。日本軍と一緒にです。隊長は。玉砕するまで、そのガダルカナル島を守れとか、硫黄島を守れとか言うのと一緒です。死ぬまで守れというんです。そうすつと、官軍の場合はどうするかって言うとなんか弱いということは分かっていますから、応援隊というのが必ず作つてあるんです。こつちが抜けましたって言つたら、その応援隊がすぐいける様になる。こういうカバーするのが近代なんですよ。ですから、一人一人の能力ちゅうのは強くなくてもいいんですよ。組織力とか、近代兵器とか情報とか、そうでしょ？今でもそうですよ。情報コンピュータで情報を取つて、そういうものとか組織のカバーで、一人一人の力は弱くてもカバーする。そういうのが、日本の軍歌になつたというののはなるほどでしょ？そして、太平洋戦争まで分列行進曲というか、抜刀隊の歌が歌われとるんです。

ところが近頃この間、富士演習場で自衛隊の、麻生首相で行進がありよる。またありよる。分列行進曲が、怖いなど、また精神主義でいつたら、いかなんかと思ひますね。何か怖

い航空自衛隊の人も出てきていますけど。やっぱり合理的じゃないといかん。合理的じゃないといけませんよ。近代と言うのは合理的じゃないと。そういうので、抜刀隊の歌と言うのもあるんです。まあ、話は戻しましょう。

8. 馬上豊かな美少年のモデル II

田原坂の、あと、美少年のモデルではさっき言いました、村田岩熊って人が、村田新八っていう人が、この人は欧米使節団に加わった人です。大体大久保の下におりました。将来お前は、あの首相になるような人物だと言われましたけど、これは欧米を見てきた人で村田新八だけが、唯一、いや、俺は西郷さんの義理が、解くわけにはいかんというので、政府を去って、薩軍に加わりました。そしてその息子が、ちょうどあたしが書いた本にもちょっと載せているんですけど、フィラデルフィアの陸軍士官学校に入ろうとしてました。息子が、ところがお父さんが西郷軍に加わったので退学して帰ってくるんです。そして、私が劇にもしましたけども、田原坂とか吉次峠とかの、あの辺の最高責任者は村田新八だったんです。篠原国幹という人が死にますからね、吉次峠で。例えば、前の田尻市長なんかは私がああ、田尻みきなんとかが篠原国幹の幹ばつけとられるのは、お父さんがたいが尊敬しとられたもんね。小さい時に吉次峠を何べんも見せに連れて行かれてお前には篠原国幹さんの幹ば、付けたけん忘るんなって言われたけん、覚えとりますって言うて、前に市長におった時言われておりましたけど、篠原国幹が死んだ時、村田新八が高責任者でした。

そのアメリカ帰りの人は、伝令につかっとなんたんですね。やっぱり隊長の息子だから。それで、ある時伝令で田原坂から、これは伝令は馬を飛ばします。馬を飛ばして来ましたら、親父さんがはりかくんですね。お前折角アメリカから帰って来とつとに伝令のごたつとしよつとかって。第一線で戦争せえ。言うたんです。はいっていうてから、隊長に願ひ出て田原坂で死んでおります。それを、ちょうど玉東町側におりました犬養毅ですね。この人が最初の新聞特派員ですね。しとる人が、田原坂の戦争が終わってから手帳をひらったんです。死体ある若者の死体。そうしたら、その手帳が全部英語で書いてあった。じゃあ、それを新聞に書くんですね。美少年、若い少年兵が、全部英語で書いとつ手帳などをね…で書くような人が、賊軍の中にいたという。この人もモデルになったという風に言われております。

それから三宅伝八郎という、人吉隊の人で、この人がやっぱり伝令になって、活躍したと、いうのでこの人もモデルだと言われております。数人おります。でも今言ったように、それからもう一つは田原坂のですよ植木の、荻迫という所に美少年の墓といいます。16歳の少年でございませう。16歳の少年のお墓があります。数えて16歳だったかな。15歳ぐらいですから、今で言うなら体格からすると小学校六年生位ですね。その人のお墓があります。それを美少年の墓と言います。そういう、無名の人で、若い兵士もいたんですね。もう15歳ぐらいから。これは20歳未満も城山でだいで死んでますよ。まあ、そういうような沢山の人が死んで美少年の墓だったり、美少年と呼ばれた人もおりますけど。まあそういう、諸々の人の若い人と思っただきたいと思ひますね。ですから特定はしない方が良いんじゃないかと思ひます。と言う事でございます。

9. 熊本の「田原坂」と鹿児島島の「田原坂」

はい他にありませんか？なんでもいい。はいどうぞ。

質問者：すみません、あの、あたしもあの、田原坂はどちらかと言ったら、鹿児島の方の節で歌っていると思うんですよね。でも本当に先生が言われる田原坂の節がまだ頭に入らないんですけど、それを聞かせてもらえませんか。

この後ろん方だろうと思うんですね。ちょっとつけて小さくしよってください。そしてあつたら私が大きくします。そんならいのもんですからね。熊本ね。

《音楽：講評中》

これは鹿児島よね。うんうん、そうね。

質問者：ついでに全部聞かせてください。

なら小さくしますね。うん。はい。

《音楽：講評中》

鹿児島は分かったでしょ。これね。こんな感じの。(手拍子) こうすつと合うやつが皆そうです。もう後からは男の戦いとかは、観光名所めぐりとかなってしまってますもんね。歌詞がね。

質問者：先生、正調とか言うのもあるんですか？

これが正調です。普通、民謡調とか私たちは言うんですね。ちょっとその従来の田原坂もちよつと豪傑武士の荘重な感じも入れるんですね。これを正調といいよんなはる人もおんなはるです。これはこの都々逸風なのも入っているんです。こぶしば入れとらすでしょ？ やっぱり歌手だけん。で、こう荘重な感じを出すためにね。こう、普通、正調と言うのはこういうのを言いんなはるです。ちょっとあんまりばってんね武者つけすぎる。これは熊本の田原坂の要素も入っているんですよ。ちょっと、え、レコード歌手だな。入れすぎですけどね。こういうのは鹿児島の歌詞ですよ。これが、あの音頭調田原坂です。赤坂小梅さん。道行き踊るんですね。分かるでしょ。植木ではみんなこれを運動会とかなんか使います。この曲ぐらいが私達がうたうには良いですよ。あんまり遅いと、上手じゃなかったら歌いきらんけん、遅いというのがいい。早いのは難しいでしょ。日露戦争の歌詞。これはレクレーション大会で作られたんです。依頼して、作詞家に。赤坂小梅さん。だけん、はよゆうならこの間の国体のアトラクションのごたつとばしたんでしょね。そんな時に作つたんですね。熊本の婦人が踊ったそうです。どっか、水前寺競技場か。

いいでしょうか？はい。是非、熊本の節でへたくそでも良いから歌って、皆さんがです、熊本の民謡の方を全国に広めてもらいたいと思いますし、民謡ですから、歌の意味がいいですか、それを少しでも説明しながら、していただきたいと思います。

《音楽終了》

おわりに

今日、これで終わりますけど何かありますか？もう一度聞いておきたい。あと 28 日には同じメンバーじゃないんですね。あ、そうですか。また現地での研修もありますし、ここにちょっと西南戦争の 130 年で、私が出したのに田原坂の歌の二節あるとか、こちらに留吉さんと朝菊さんの写真を見つけ出しまして載せております。それから民謡熊本民謡の譜面ですね。これは出田先生に、みんなが歌っているのを逆に作ってもらいました。すこし、NHK のも違うんですね。ですから、植木町でモデルになる歌い方を残しておこうとどこもしないなら、市町村としてそういう事で作りましたので、譜面がついております。これでちょっと、音楽が分かる人に弾いてもらえば分かると思います。それから、今お話がありました、美少年のモデル、美少年の墓という、ここに美少年の墓というのがあります、

植木町に。それからさっきの村田新八が、このフィラデルフィアで留学している息子と会った写真があります。この人が死んでしまうんですね。まあ、そういうような、美少年のモデルの人もいらっしやいます。質問が無ければ終わりにしていいですか？

そうすると、ここに、今日ちょっと持ってきておきます。もう終わってからです。それでこれ植木学校という、植木にあります熊本共同隊というのを作っとります。皆さんこれご存じないと思いますけど、熊本隊と熊本共同隊というのがある。加わっとりまして、その後、今日お話しました九州日日新聞と九州新聞に分かれて武力で戦った後は政党を作るんですね、熊本で。その二大政党でいいですが、そういう時代が熊本にございました。国権党対政友会、それが自民党の自由民主党の民主系と自由系というのに。戦争で合併したんですね。太平洋戦争のとき戦時合併で九州新聞と九州日日新聞が熊日に合併させられました。政友会と国権党が一緒になって、自由民主党が生まれましたから、松野頼三さんが自由系だとか、大麻唯男さんは民主系だと、昔、今は自由民主党となって一緒になって思ってますが、そういう元になりました植木学校。これが、100年前に、男女同権とか女子の職業進出だとかそういう政党の中で、訴えております。ですから、男女同権とか、男女参画社会なんていうのは100年前にもうあってるんですね。そういうことが今度分かりましたので、興味のある方は読んでいただきたい。

それでは質問良いですか？折角あれですから。あたしは時間まで話した方が良いでしょう。

では、あの本日先生の方からお話もありましたけれども植木学校と、熊本協同隊の若者たち並びに「人あり熊本城」いただきました。近日中に9Fのライブラリーの方に置いていただくようになりましたので、またご利用お願いいたします。では…

ちょっと待って。じゃあ、もうちょっと話すね。え、折角ですからごめん。あの、時間までびっちり、折角だから、あのね、あ、もう終わり？なら良いです。あの、ではそれで終わります。どうもご清聴ありがとうございました。